

五ヶ瀬町 R S 育成プラン 「リーディングスキル」を身に付けた児童生徒の育成

R S を各教科の基礎力と考えた取組の提案

R S（リーディングスキル）とは

新井紀子氏が提案する6つの観点から整理された基礎的読解力

- 1 係り受け（主語と述語、修飾語と被修飾語の関係の理解）
- 2 照応（指示代名詞の指す言葉の読取）
- 3 具体例同定（辞書）（国語的定義文と具体例）
具体例同定（数理）（数学的定義文と具体例）
- 4 同義文判定（2つの文の意味が同じか否か）
- 5 推論（文の意味を理解する）
- 6 イメージ同定（文章と図を一致させる）

直ちにに取り組む

1 R Sに関する研修(知る)

- (1) なぜR Sに着目しているか。（R Sと学力との相関）
- (2) R Sとは何か。（R Sの6観点）

2 教師の意識にR Sを加える。(意識する)

- (1) 児童生徒の言葉を意識する。・話し言葉 ・書き言葉
- (2) 教師の言葉を意識する。・話し言葉 ・指導言
- (3) 授業のパーツを意識する。・文の正しさを考えさせるパーツ
・文の意味を考えさせるパーツ
- (4) 授業の展開を意識する。・言葉にこだわらせる発問
・文章の内容にこだわらせる発問

継続的に取り組む

1 保・小・中において、段階的、継続的に育成する。

- (1) 五ヶ瀬A. S. カリキュラムとの関連
- (2) 五ヶ瀬グランドビジョンとの関連
- (3) 国語科の授業における段階的指導
- (4) 各教科の授業における指導

2 R Sを意識した各種学力調査への取組

- (1) 単元の評価テストにおけるR S指導
- (2) みやざき学力調査を使ったR S指導
- (3) 全国学力・学習状況調査を使ったR S指導

3 R S Tを使った評価

- (1) R S T結果の分析・考察
- (2) R S T結果を基にした指導の工夫改善

保・小・中を通した段階的な指導

保育所

1・2年生

3・4年生

5・6年生

中学生

スキルの指導を重視

思考の指導を重視

アプローチ期の育成 ～R Sの素地を養う1～

○おしゃべり

- ・質問に対する正しい応答
- ・意思を伝えるための正しい言葉遣い（主語と述語、指示語の意識）
ぼくの。ぼくのなあに？
あれとって。あれってなあに？

○読み聞かせ

- ・語彙を増やす
- ・正しい日本語にふれる

①係り受け ②照応

- ・学年相応の文や文章（各教科の教科書）の内容を正しく読み取ることができる。
- ・授業中のノート、日記、作文、随筆、小論文において、日本語として正しい文を書くことができる。
- ・授業中等の発言において、係り受けの正しい文で話している。
- ・授業中等の会話において、話の内容を正しく理解し、正しく受け答えをしている。

スタート期の育成 ～R Sの素地を養う2～

○音読

○読み聞かせ

- ・語彙を増やす
- ・正しい日本語を刷り込む

④同義文判定

- ・教科指導の中で、同じ内容を示す書き方の違う2つの文が同じ内容を示していることを理解できる。
- ・日記や作文で、一つの文を違った表現を使って書くことができる。

③具体例同定

- ・各教科で言葉の意味を調べたり説明したりできる。

⑤推論

- ・各教科の発問に対し、教材文の言葉を根拠にして答えることができる。

⑥イメージ同定

- ・算数科、社会科、理科で意見を述べる際、図、表、グラフを使って根拠を説明できる。

③具体例同定

- ・各教科で言葉の定義を説明できる。

⑤推論

- ・各教科の判断を問う発問に対し、教材文や資料を根拠にして答えることができる。

⑥イメージ同定

- ・算数・数学科、社会科、理科で意見を述べる際、各種資料を使って根拠を説明できる。